

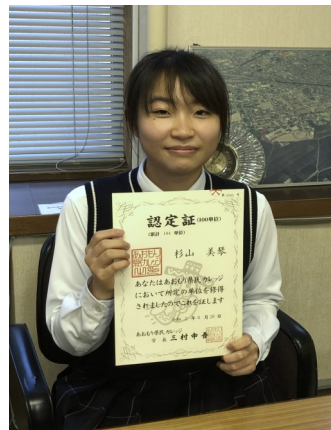


高校生スキルアッププログラムを活用してあおり県民カレッジによる認定証(100単位)を取得したチャレンジャーに、インタビューをしました。

すぎやま みこと

青森山田高等学校 3年 杉山美琴さん(令和2年度当時)

※「高校生スキルアッププログラム」の単位は「青森県民カレッジ」の単位としても活用できます。杉山さんは「高校生スキルアッププログラム」を活用して単位を取得し続け、昨年、青森県知事より「あおり県民カレッジ」100単位認定証を授与されました。



— 100単位をとろうと思ったのはなぜですか？

最初は、単にボランティアや講座を受けたいと思っただけです。地元の者として青森を知りたいと思っただけのことでした。

「高校生スキルアッププログラム」は担任の先生から紹介されました。その先生の「やりたいことが進路にも役立てられて、スキルアップにもなるよ」という言葉が参加するきっかけになりました。単位をあまり気にしたことはなかったのですが、ボランティアや講座を重ねていくうちに100単位を意識するようになり、やがて目標にするようになりました。

— 100単位をとったときは、どう思いましたか？

特別「100単位を取った！」という実感や感動はありませんでした。それよりも親や学校の先生に協力頂いてボランティアや講座を受けることができたので感謝の気持ちでいっぱいでした。また、ボランティアを運営される方や講座の講師の方などから良い刺激や経験をさせて頂きました。

ただ、100単位の申請をした際にレポートを手持ったとき、「こんなに書いたんだなあ、凄いな」と自分がしてきたこと(努力)を客観的にみることができ、自分自身に感心しました。

35単位の時とは厚さや重みが全然違うなあという感想を持ちました。

— 活動後にレポートを1000字も書くのは大変じゃない？

最初は書く内容がよくわからず大変でした。コツは視野を広げて書くことです。事前に調査をして、実際にやってみて、事後も調査するようになってからは全く苦にならなくなりました。また、視野が広がったことで1つ1つの講座やボランティアについても考えを深めることが増えました。

— 大変だったことは？

時間を作り出すことが難しかったです。講習や部活動、模擬試験もあり、放課後や休日に活動するのは強い意志がないとできません。学校との両立が一番の課題でした。

— 参加するボランティアや講座はどうやって見つけていますか？

市民センターや図書館にあったチラシを活用したり、担任の先生が直接教えてくれたりすることも多かったです。何より、自分で情報を得るために自主的に収集しました。



「プログラムでやってきたことはいつでも自信を持って話せる」と杉山さん

— 交付された認定証は何かに活用しましたか？

現在3年生で、国公立大学を志望しています。総合型入試を利用しようと思っているので、「高校生スキルアッププログラム」で得た知識や経験を最大限に発揮したいと考えています。

— この取組を通して自分自身にどんな変化があったと思いますか？

とても視野を広げることができたと思います。ジャンルを絞らず様々なボランティアや多種多様な講座に参加することで、思いがけない知識や経験の点と点が繋がっていくことで、新たに発見できたこともありました。

— この取組を通して身に付いたことは何でしょう？

3つあります。

1つ目は人と関わる、話すというコミュニケーションを取るスキルが身に付いたことです。学校ではできない異年齢での交流が活発に出来るようになったと思います。

2つ目に、行動力と情報収集能力です。自ら行動しないと情報も収集できないので、自分から情報を得るために、積極的に情報収集をし、行動できるようになりました。

3つ目に、チャレンジ精神と探究心です。特にこのスキルアッププログラムでは1000字のレポートを作成しなければならないのですが、このレポートをきっかけに1つのテーマに対して興味を持ったことをどんどん深掘りし、追求していく探究心が身に付いたと思っています。

— 今後も活動を続けていきますか？

単位は1つの目安でしかないと思っています。今後も参加して青森県のことについて、もっと知りたいと思っています。

— 将来の目標は？

青森県が大好きなので、青森に携わる職業に就きたいと思っています。将来は農業土木技術者になるのが目標で、そのために大学進学を目指しています。